

にゅとぴあ岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ

3/1

(日)

出会いの場 地球どんぶり

「ひな祭り」に外国人日本語サロン生が一同に集う

No.103



久米田寺明王院

現在、当協会の事業の一環として開設している市内の5つの日本語サロンで学ぶ、インドネシア、ベトナム、スーダン、フィリピン、中国、韓国、フィンランド、ネパール等からのサロン生や、指導者、協会スタッフを含め総勢約60名が参加しました。日本伝統文化である「ひな祭り」を通じて、日頃あまり接することのないサロン生間の交流と親睦を深めながら、国際親善を推進しようとするものです。午後1時30分より、協会からの開会挨拶と久米田寺明王院住職さんからの歓迎のお言葉に引き続いて、大広間に飾った7段のひな人形について、スタッフによる分かり易い説明がありました。着物姿のサロン生は国籍を問わずかわいいもので、大変似合っています。嬉しそうな笑顔で撮った記念写真は一生の良き思い出となることでしょう。その後、日本の伝統楽器である琴と尺八の演奏には大変興味深そうに、聞き入っていました。また、「さくらさくら」、「うれしいひなまつり」のあと、東日本大震災による被災地の復興を願った「花は咲

く」の合唱はよくテレビでも放送されているため、皆さんよく御存じで、一生懸命にひらがなの歌詞を追いつながりながら歌う姿には、万感胸に迫る思いがしました。ひなあられを食べながら、お点前、かるた、折り紙等々の体験は、皆さんのお国にはみられないものばかりなので、「あらためて日本の伝統文化のすばらしさに感動しました」というのが、皆さんの感想でした。



生憎の「桃節句雨」で、梅で満開の庭を散策することが出来ませんでした。日本伝統文化の経験、サロン生間の交流親睦を通して、国際親善を大いに推進することができたのではないのでしょうか。このような場をご提供いただいた明王院様や企画・実行されたスタッフの皆様に、厚く御礼申し上げます。
(広報部会)



国や言葉を越え、みんなでかたした遊びを楽しむ



「にゅとぴあ岸和田」は世界の人びと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。

和泉高校での日本語指導



交流

和泉高校での、日本語指導ボランティアとして半年たち、1月よりケルビン君が留学生として加わりました。ケルビン君は日本語習得にとっても前向きで、日頃友達との会話や、授業の中で、日本語での疑問点があれば私たちにどんどん質問してきます。9月から来ているザック君もめきめき上達し明る



左 ケルビン君と西山さん 右 ザック君と里見さん

ケルビン君もやって来た！

ザック君に続き、16歳のケルビン君が今年1月、アメリカ・カリフォルニア州から和泉高校に留学してきました。日本のアニメが好きで、日本に興味を持ち、アメリカで3年間日本語の勉強をしてきました。そして、去年の6月に2週間の短期留学で和泉高校に通い、すっかり日本が気に入ったようです。もう少し日本で勉強したいというケルビン君の願いがかない、今回3カ月間の留学が実現しました。国際親善協会から依頼を受けた私たち4名が交互に、週に1回2時間だけケルビン君に日本語の指導をしています。ケルビン君は、日常会話の40パーセントぐらいは理解

い表情を見せてくれて、和泉高校での日本語指導は楽しく充実したものになってきました。日本語指導は、指導者が、お互いの指導内容をメールで共有しながら進めています。短期間にいかに日本語を習得してもらって、充実した日本での高校生活を送れるようにするが試行錯誤を重ねています。はるかアメリカからやってきた彼らの、保護者さながら、教室にやってくる彼らの表情に一喜一憂です。こうして今回二人の留学生に関わることができ、岸和田を、目指してやって来た彼らと楽しく日本語の学習をする機会に恵まれうれしく思います。(西山 みゆき)

できるとのことです。ひらがなやカタカナ、やさしい漢字の読み書きもできています。彼は私たちに、漢字を覚える手伝いと京都や奈良などの話を通して日本の行事や文化を教えてほしいと話しています。踊ることやTVのコメディーを見るのが好きなアクティブなケルビン君です。短い期間ですが、日本語を勉強しながら日本での生活を楽しんでほしいと願います。(里見 元子)

東岸和田日本語サロン活動状況



交流

▶サロン概況

5サロン中唯一の昼間開講でサロン生及び指導者は各20名で女性が圧倒的に多い。サロン生の出身は約10カ国で子供連れの方も多く家庭的雰囲気の特徴です。交流促進と日本文化の紹介を目的として次のイベントを実施している。

- ◎お誕生会(年4回 簡単な料理を全員で作る)
- ◎歌う会(毎回「故郷」等の日本の歌を合唱)
- ◎ランチ会(随時)
- ◎サロン通信発行(隔月刊)
- ◎七夕祭り(願い事を短冊に書き笹飾りを作る)等。

▶若きサロン生を迎えて

当サロンはこの度、孫のような若き二人を迎えた。昨年にザック今年に入ってケルビン。両君はアメリカから和泉高校に留学中で高校生二人が同時期に同一サロンに在籍するのは極めて稀である。当初は、年上の女性サロン生に混じって戸惑い気味で無口無表情であったが、受講態度は真面目で、時の経過と共に笑顔も浮かぶ。両君には日本語と日本文化の理解を深め岸和田での良き思い出を糧に将来活躍することを願う。

▶日本での生活(サロン生アナリンさん寄稿)

アナリンといいます。フィリピンから来ました。子どもと主人の三人でくらしています。3年前に日本に来たとき、びっくりしました。閑空では、たくさんの人がいそがしくごきまわっていました。フィリピンでは、みんなあまりいそがないです。日本では仕事と時間をたいせつにします。仕事におくれてはいけません。フィリピンではおくれてもだいじょうぶ。30分なら。仕事よりかぞくをたいせつにします。にほんのくらしはいいです。



お誕生会

どこを見てもきれい。食べ物もおいしい。人もやさしい。主人のお父さん・お母さんもだいすきです。日本に来たころ、あまり話せませんでした。家にいてばかりでした。でも、サロンに行くようになって友だちができました。すこし話せるようになって、外にでることがふえました。サロンでは、ちょっと話して、ちょっと書いて、ちょっと漢字の練習をします。

子どもや友だちやまわりの人と、日本語でもっとじょうずにコミュニケーションできるようになりたいです。日本語を勉強する皆さん。あたらしい言葉をべんぎょうするのはがまんがいらいます。日本語はとてもむずかしい。でもおもしろい。いそがないでたのしんでつづけると、いつかゴールできるでしょう。ありがとうございました。

(東岸和田日本語サロン)



アナリンさん

地球村 クッキング



インドネシア料理に 舌つづみ

春木市民センター

2/1
(日)



列島丸ごと冷蔵庫に入ったような寒さの中、春木市民センターで開催された異文化理解講座「地球村クッキング～インドネシア編～」には30名近い参加者がありました。今回、珍しく3名の男児も参加されての賑やかなおいしい事業となりました。

7名のゲストが7品の家庭料理を指導され手際よく作ることができました。ゲストの女性実習生は、全員同じ職場でデントの縫製をされているとのこと、日本語を学ぶため春木日本語サロンに通う方たちです。実習制度は3年の任期で来日、その後帰国され日本での経験を活かして社会貢献されます。ゲストの中には6月に帰国される方もおられましたが、みなさん日本語がとても上手でした。彼女たちの努力がうかがえます。

会社に合宿され自炊をされているというだけに買い物、下ごしらえなど無駄がなく明るくてとてもおしゃれな方たちでした。日本での生活はどうか、との問いに物価は高いがとても暮らしやすいとの返答が返ってきました。

参加者は、珍しい食材のテンペ(乾燥納豆)やココナッツミルクを使った料理などで、インドネシアの家庭料理のフルコースを堪能することができました。ゲストの彼女たちに感謝します。

(事務局)



第22回 泉州国際市民マラソンに通訳を派遣

2/15
(日)



今回も当協会より、7名の皆さんにご協力いただきました。特に公式行事を含めて長時間の通訳を担当した松本さんと金さんには各方面から感謝のお言葉をたくさんいただき、協会としても誇らしいところです。

通訳をさせていただいて

昨年の夏に、岸和田市の姉妹都市であるサウスサンフランシスコ市からの高校生をホームステイで受け入れたこともあり、日常会話なら大丈夫!と自分を鼓舞して人生初、通訳デビューの日となりました。ランナーのアリッサさんは小学校の先生で、サポート役のご主人も来日されていました。私の役目は、アリッサさんが出来るだけ少ない不安や緊張でマラソンに臨めるように、競技前後のホテルまでの移動時間をより快適に過ごせるようにということでした。彼女はこれから4時間ほどの時間を走るとは思えないくらいとてもリラックスしていて、移動中の会話では、マラソンは3回目であり、そのうちの2回は泉州マラソンであること、ご主人がレストランで夜の時間帯での勤務なので1人でトレーニングしていること、新婚さんであること、競技後には東京観光することなどを話しました。私自身も合間を見てはマラソンの応援を楽しめる有意義な時間も過ごさせていただきました。と同時に、もっとたくさんの話しのネタがあれば…、もっと私の英語が上手であれば…と反省し、これを機会にさらに勉強しよう!と誓った日でもありました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

(日置 真由美)

左から日置さん、金京雅さん、
アリッサ&コールご夫妻、
朴完雨さん、金錫澈さん



エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ、世界のカルチャ、ファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを、題材にとらわれず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

* * * * *

ゲストとホスト

泉州国際市民マラソンに姉妹都市のサウスサンフランシスコ市 (SSF) のランナーのアリッサ・マザーズさんが我が家にホームステイしました。SSFと岸和田は、関空とサンフランシスコ国際空港の近くに位置し、立地条件が似ていることも姉妹都市となっている理由だそうです。新婚のご主人コールさんも一緒に来日、ご夫妻で我が家にホームステイです。ちなみに彼はランナーではなく、応援で参加のために来日です。

SSFと岸和田に共通点があるように、彼らご夫妻と私たち夫婦も年齢は親子ほど違いますが、共通点がありました。それは、女性がランナー・男性は応援という共通点です。我が家も家内がランナーとして参加、私は自転車で応援です。コールさんはスタートと岸和田消防署前とゴールで応援をされましたが、私は自転車で移動しながらの応援、2人とも4時間ちょっとでゴールしました。その後は我が家での夕食となりましたが、ランナーと応援で、一緒に泉州マラソンに参加した者だから出来る会話に時のたつのも忘れた楽しい交わりとなりました。

翌日は、アリッサさんの希望でスーパー銭湯へ、ただし彼女ひとりでご入浴、少し不安があったかもしれませんが、これも本来のアメリカ人の陽気さで「Adventure!」といって銭湯に入っていました。

その間、私とコールさんは旧岸和田市内をサイクリングしました。岸和田城→五風荘→紀州街道の町並み→浜校区の住宅地→ベイサイドモールと、史跡から生活臭のする路地裏、近代的なショッピングモールを、ほんの数十分の間に味わうことができ、彼も喜んでくれました。

今回、マラソンと自転車という共通の趣味を持った夫婦とホームステイで一緒に過ごせた機会を与えてくださったことに感謝します。

(内田 満弥・喜江)



アリッサ & コールご夫妻と内田ファミリー

12/20
(土)

Carolina (コロンビア)、Ariana (コスタリカ)、Vikica (モンテネグロ)、
Dania (ドミニカ) さん



今回のイングリッシュオープンカフェは、写真左よりコロンビア出身のカロリーナさん、コスタリカ出身のアリアナさん、モンテネグロ出身のヴィキカさん、ドミニカ出身のダニヤさんという4人のゲストにきていただきました。

アリアナさんは公務員、他の3人の方々は 外交官として働いておられます。それぞれ 2つずつ出身国紹介の動画を見せていただいた後、プレゼンテーションをしてくださいました。グルメや文化、気候について等、私達があまり知らない情報をたくさん教えていただき、興味深いもので

した。それとともに、盛り上がったのは、みなさんが、日本に來られて驚いた事についての話です。まず挙げられたのは、ハイテクすぎるトイレや、正確すぎる交通機関で、自国ではありえないと話しておられました。やはり日本語は難しいらしく、カタカナや物の数え方、丁寧語の使い方等で、苦労されている様でした。しかしながら、日本をとて愛してくださっている事が話の中で伝わってきて、美人で陽気な4人の方々と和気あいあいとした交流は時間が過ぎるのを忘れる程、楽しいものとなりました。ぜひそんな素敵な彼女達の国に旅行に行ってみてください。今後ますますの彼女達の活躍を期待しています。(匿名)

1/17
(土)

Arber さん (コソボ)



昨秋 11 月 23 日、関西国際センターにて「ふれあい交流祭」に参加し多くの国々の人達にお会いして意義深い一日を過ごしました。そこで、English Open Café のゲストにお誘いしたところモンテネグロ、コロンビア、コスタリカの闊達な女性たちが来てくださり成功!

1月には是非中国のゴウ・フエさんをお招きすべく細心の努力をもって関西国際センターに招待状をお送りしましたが、全くの返信無しで残念無念! 東田さんの気転で急遽コソボの Arber さんに来ていただくことになりましたのでほっとしま

した。それでもゲストがこられる瞬間までのドキドキは毎回のことです。世界にはいろいろな考え方があり日本人のような感覚は希少かなと思うことがよくあります。しかし希望を叶えることを信じて努力していると “念ずれば花開く” です。English Open Café を通して多くの国を知することは必須です。コソボの Arber さんは若い外交官で私たちにとっては遠く離れたアドリア海の向こうのバルカン半島の国々の中にあってそれぞれの国は最近独立以来自然に恵まれその生活、文化、自然の美しさに驚嘆しました。お話のなかでイスラム教の自由な、他と異なった考え方を知りました。English Open Café に参加して「聞く、見る、知る、語り合う」ことで日本を再発見したいものです。これからも未知の国から來られるゲストによるプレゼンテーションへの皆さまのご参加をお待ちします。(篠原 栄子)

2/21
(土)

Vânia Fátima Araldi さん
(ブラジル)



予告通りのすばらしい著名人ゲストをお迎えしました。各テーマ毎のパワーポイントによる映像と解説は、非常に分かり易く構成されていました。タイミング的にも日伯外交樹立120周年を記念したカーニバルの週で、大いに盛り上がりました。外国から史上初めて参加した青森・五所川原市の巨大な山車は、東日本大震災の復興を願い、大明神がナマズを懲らしているというユニークなもので、現地でも多くの人々の共鳴を得たことでしょう。又中央公園で飼っているペアーのベニコンゴウインコは、ブラジルの国鳥であること。ブラジルの国土面積は日本の22倍もあること。その広大な国土の中で、河、熱帯雨林、植物群、動物群等々、世界に類を見ない数多くの自然が存在していることをあらためて認識しました。ブラジルは GDP 世界第5位、発展のために貢献してきた日系ブラジル人は今や5～6世の時代です。

今後益々発展していくことでしょう。

コーヒープレイクのあと、会員の塩屋さんから、Araldi さんの関連テーマとして、いろいろな問題を抱えている外国人生徒に対して、大阪府が取り組んでいる様々なサポートシステムの紹介がありました。小中学校で通訳サポートを必要としている子供たちは、2,900名/425校。私たちも日本で住んでいる外国の人たちを、いろんな形で支援していく必要があると思いました。

最後はサンバのリズムにあわせて、会場狭しとばかり全員で踊り、ちょっと恥ずかしい気もしましたが、踊っているうちにウキウキした気分になりました。ラテン系の方の陽気さには大いに学ぶところがあります。母として、先生として、超多忙な生活の中で、異国で一生懸命に楽しく生活をエンジョイされている Araldi さんに頭のさがる思いがしました。そしてブラジルは私の住んだ国々の中で一番すばらしい国であったことを再確認しました。Thank you very much! MUITO OBRI がとう! ～和製伯語～ (堺 徳子)



クラブ紹介 英語 IN あすなるクラブ



誰もがブラッド先生とは言わず親しみを込めてブラッドと呼ぶ。彼は親善協会あすなるクラブの英語指導者で米国ケンタッキー出身のナイスガイである。多くの場で英語を教える傍らラジオ出演やフルマラソンもこなす。ユニークなのはだんじりマニアでありシーズンともなればレッスン日程が変更になることもある。レッスンは月2回。英会話教室と言うよりコミュニケーションを重視する英語サロンである。スピーキングとヒアリングのみで読み書きや特定の教材も殆どない。トランプ、ゲーム、ジェスチャー、クイズ、音楽等多彩なツールを駆使して、知識としてだけでなく体全体に英語を浸透させ英語を学ぶ喜びを体感させる。

メンバーの海外旅行の後にはお土産のお菓子と共にスライドを使って、英語での土産話のプレゼンは慣例化している。クリスマスパーティも毎年行われており、新年を迎えるにあたっての決意表明やプレゼント交換により盛り上がる。この時は自分の英語能力レベルを忘れ、夢中であるいは四苦八苦しながら横文字パーティを満喫する。とかく日本人は誤った英語を話すのは恥ずかしいと考え発言に消極的となる。英語学習に関しては「雄弁は銀、沈黙は金」の意識を捨て去ることの重要性を認識させる場が「あすなるクラブ」である。(F.O.)



日本語指導者養成講座

3/5
(木)

第12期 日本語指導者養成講座初級修了式

受講者19名の内12名の方が修了証書を授与されました。21回の講座、5回以上のサロン見学と、厳しいカリキュラムの70%以上の出席率をもって修了となられた12名の方たちには、上級を無事修了され5つある日本語サロンにおいて外国人のよきパートナーとして活躍されますことを期待します。

3/14
(土)

日本語指導者レベルアップ講座の開催

各サロンで指導に当たっている方を対象とした講座を開催しました。講師には神戸女学院大学の准教授 建石 始さんを招き「個別指導・日本語サロンを楽しく」をテーマにお話いただきました。

講師は、日本語教育が専門で、日本語教育の現状を調査し、地域へのフィードバックを念頭に外国籍市民～地域住民～自治体の連携構築を研究しておられ、当協会の日本語サロンの視察もされておられるので現状に即したお話が聞け有意義な学習会となりました。

詳細は次号に掲載予定です。

(事務局)

地球家族

■国際親善と差別憎悪

ヘイトスピーチ！

周知の如く、実に聞くに堪えない言葉が白昼堂々声高に叫ばれる。これは昔の話や外国の出来事でもなく、まぎれもなく我が国での現実である。これは世界人権宣言、人種差別撤廃条約、日本国憲法等が定める崇高な理念を根底から否定するものである。人には各々異なる政治的信条 宗教的信仰 価値観があり、これを表現することは表現の自由であり最大限尊重されなければならない。しかし特定の民族や国をゴキブリ呼ばわりして「死ね」と言うのは決して表現の自由の範囲内ではなく言葉の暴力であり脅迫侮辱以外の何物でもない。

我々はとかく居心地の良い同質性を求め、その基準を離れた対象に対しては不寛容排他的になる。異文化、異民族、異教徒の力が拡大すれば、それを憎悪し差別し排除する。ヘイトスピーチは相手の尊厳を傷つけ人格を否定するだけでなく、これにより精神的に追い詰め心に大きな傷を負わせることとなる。

グローバル化が進み国や民族間の壁が薄れる一方で匿名化された差別発言がネット上に氾濫し発信拡大される。欧米民主主義国家に於いても偏狭なナショナリズムや迎合的なポピュリズムが台頭し排外主義を叫ぶ集団が大手を振るい差別的言説が人気を集めている。先般、国連人種差別撤廃委員会が日本政府に対して善処を求め、最高裁もヘイトスピーチの違法性を認めた。

親善協会会則は言う「世界の人々とのふれ合いを大切にし、その親善交流を通してお互いの理解連帯を深める」。ヘイトスピーチと国際親善は対極にある。各種の「異」に接した時、憎み排除するのではなく「異」は「異」として認める度量と寛容を持って、そこから何かを学び取ろうとする態度こそ重要である。これ無くして真の国際親善はあり得ない。(奥野 藤樹)



春木日本語サロンだより



交流

春木日本語サロンは、南海春木駅前の春木市民センター内で開設しています。学習者40名と支援者22名(H25教室調査)が登録しています。実習生が帰国するときには「お別れ会」、お正月には「日本の昔遊び」など折に触れて学習だけでなく、さまざまなプログラムを通して学習者に日本の文化に触れる機会を提供しています。

今回、三年間の実習を終えて帰国する学習者のために開いたお別れ会後、投稿いただきました原稿を紹介します。



松本さん レフィ アディ君 ヘンドラ レスマナ君 田中さん ホアン セオチャン君

ほんとうに たのしかったです

ホアン セオチャン/ベトナム

ベトナム



2011年11月22日 日本へきました。そのときは日本語をわかりませんでした。

はじめて日本にきたときはほんとにさびしかった。それからじぶんでがんばることとyusupさんせんぱいにサロンをおしえてもらいました。つぎにサロンへいきました。だんだん日本語をべんきょうした。つぎつぎにサロンからともだちとせんせいになれました。せんせい、私たちはサロンにいったときにいろいろのことをまちがいました。せんせいすみません。3年間サロンからいろいろのところにいきました。ほんとうにたのしかったです。いま日本語だんだんなれるですけど、つぎに私たち3年間けいやくおわりました。

しごとと日本のぶんかもいろいろのことなれました。これから私たち、くにへかえります。いま、すぐにへかえりますけど、せんせいともだちとみなさんはわすれないです。みなさん、さようなら。せんせい、さようなら。おげんきで

(原文のまま掲載)

頑張ったね、ヘンドラ君

インドネシア



インドネシア出身の技能実習生、ヘンドラ君。春木サロンで二年余り日本語学習の手助けをさせていただきました。早朝からの仕事、残業も多い中、がんばって通ってくれました。礼儀正しいさわやかな青年でした。彼の将来に幸多かれと祈りつつ、いつの日か日本での再会を夢見てのお別れとなりました。

(田中 清子)

レフィ アディ君、インドネシアに帰る

インドネシア



レフィ君は春木日本語サロンのサロン生だ。彼の仕事場は早朝4時から夕方5時まで働く忠岡町の晒工場だ。残業すると食事を抜き自転車ですalonに駆けつける。時には、眠気との戦いだ。帰国の前になって初めてわかったのは、岸城夜間中学に通っていたこと。

私はレフィ君の学習意欲に本当に驚いた。『地球どんぶり』で奈良に行ってみようのバスツアー、隣に座るレフィ君と話が弾む。「先生、カラオケはいつ行きますか?」「早く行きたいね、レフィ、日本の歌は何を歌うの?」「翼をくださいが好きです」。

外国人会合の場—『地球どんぶり』のひなまつりが始まる。日本間に飾られたひな人形の前でサロン生の写真撮影が始まる。レフィ君がカメラを覗き込み着物姿のサロン生を一人ひとり写す。「地球どんぶり」みかん狩り、岸和田城の夜桜見物、ボウリング、楽しい思い出を思い出す。

レフィ君は関空からデンパサールへの直行便で西ジャワ州バンドンの故郷に帰る。

君は私たちの誇りだよ。頑張れよ。

(松本 光雄)

Information 案内

■関西バリ舞踊祭の開催

関西屈指のバリ舞踊家が一同に集います。ガムランの生演奏とともに楽しみいただけます。バリ料理、民芸品などのお店も出店します

(と き) 6月6日(土)
17:00~20:00
(ところ) 岸城神社 境内
*参加費は無料



■2015年度総会

(と き) 5月9日(土)13:30~
(ところ) 自泉会館

1部 議事・役員改選
2部 カンガルー英語クラブ有志による「オカリナ演奏 / カンガルーナ & ゴスペル演奏 / Blessing Angeles」

■English Open Café の開催

9月以外の第3土曜日の13:30~マドカホール 3F 視聴覚室で開催します。申込なしでどなたでも参加できます。進行は全て英語です。

■市民フェスティバルスタッフ募集

協会では「ちぢみ」の販売、「割りばし鉄砲づくり」などで参加します。スタッフは8:30集合です

(と き) 5月3日(日)
(ところ) 中央公園
*お手伝いいただける方は事務局までお申し出ください

にゅとぴあ岸和田 No.103 編集担当

編集担当 緒方理世・奥野藤樹・塩屋 裕・執行真央・三森すみ代・米川典子
お問い合わせや感想などは事務局まで TEL&FAX (072)457-9694